

震災 1 銭 5 厘切手 1 枚貼りの 「第三種 3 倍重量便」 使用例

いまさら言うまでもないが、震災 1 銭 5 厘切手 1 枚貼りの適正使用として考えられるのは、ごくありふれた私製はがきへの貼付例であろう。元々その用途のために発行された額面切手であるため当然と言える。

ところが、右図のエンタイヤ（帯封便）は、同じ 1 枚貼りでありながら、「第三種 3 倍重量便」という 非常に珍しい使用例になっている。データは、（浅草）／13.11.3／后 2-3。

宛先と同じペン書きにより「三種」と書かれているのが、何とも頼もしくてありがたい。

当時の第三種便（定期刊行物）の基本料金は、20 匁（75 g）あたりごとに 5 厘という、相当優遇された料金であった。その 3 倍ということは、225 g 以内の重量になる。

差出人が玉泉堂という書店であることから考えて、書籍関係の宣伝カタログ等々を送ったのであろうか。

極めてユニークな使用例であるためか、これまでに私が確認しているのはこれ 1 通だけである。

（日本郵楽会会員：西川 恵久）

三和

淺田新太郎

市羽村市信
市羽村市信

殿

四二町筋三西區草淺市京東

店書堂泉玉

